

等友

S
60
10
1
生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
真宗大谷派
勝龍山
等覺寺
住職
朝倉創

令和7年3月
第114号
責任編集
朝倉 翔

あいつは嫌い これは駄目

あいつは困る こいつはいいと

切り続ける

どうやら私はハサミのようだ

平野 修

そろそろ思い通りにはならないものだと自分自身に
言い聞かせるも、「私が正しい」「なぜわかつても
らえないのか」と文句や愚痴が次から次へ溢れ出て
くる。私たち一人一人が、物事を判断する価値観を
持っている。その価値観で世の中の善悪、優劣、損
得等々をはかり、判断している。我が思いにおさま
るように現実を切り取っているのである。が、そも
そも現実は人知を超えた、一個人の価値観でははか
りきれない世界である。それをはかれると思つてい
るところに、愚痴が溢れる生活の原因があるので
ないだろうか。

（真宗大谷派難波別院ホームページより）



春の渉成園(東本願寺飛地境内)

はじめに

早いもので令和七年も三ヶ月が過ぎようとしています。今回の等友では、昨年十月の報恩講でのご法話の一部を紹介いたします。

恩講でのご法話の一部を紹介いたします。
昨年の報恩講では、源隆寺の白川副住職（等覚寺住職と年が一つ下と近いこともあります）をお招きしご法親友のような付き合いです）をお招きしご法話をいただきました。それではどうぞ。



◎神社とお寺

皆さん、念仏して何かいいことありましたか。宝くじ当たったとかないですか。神棚や仏壇によく宝くじが置いてあつたりしますけど、念仏したら宝くじ当たりますかね。そういうようなことを今日はお話したいなと思います。ご利益のごを隠すと利益になります。利益と言えば皆さんも何となくわかりますよね。会社の利益とか、自分の利益になるとかそういう意味になります。これにごが付くとごりやくと読むようになります。神様とか仏様が人に対して与える恵みとか幸運ということです。ここで皆様にクイズです。浄土真宗になくて、他のお寺や神社にあるものは何でしょうか？お守り、おみくじ、御札、御朱印、絵馬、破魔矢。こういった類のものは実は淨

報恩講（二〇二四年十月）の法話

法話紹介

土真宗のお寺には一切ありません。これは一体なぜなのか。他の宗派のお寺や神社はそういったものがどちらかというと貴重な収入源になつてますが、私ども浄土真宗では売りません。お配りすることもありません。これが私どもの浄土真宗を表していると思います。

神社とお寺、何が違いますか。まず、崇めるものが、神様か仏様かですね。神社って何をしに行くところですか。願い事をする所ですね。私も十七歳の時初詣に行きました。その帰りに交通事故に遭いました。お賽銭が五円だったのがいけなかつたのかなとか、そんなことも思い出しましたけど。皆さんももしかしたらこんな経験、あるかもしませんね。初詣に行つた年は不幸なことが全く起こらなかつたですか。そんなこともないですよね。でも、神社を訴えましたか。おみくじ引いて大吉だったのに、悪いことが起こつたじやないかって訴えた話は聞かないですね。みんな何となくわかっているんですよ。これ本当

にその通りのかなつて。何となく引いて、おみくじで大吉が出たからラッキー、今年一年大丈夫みたいな。浄土真宗ははつきり言つてしまえば、そういうものに惑わされないと、何があるかといったら、南無阿弥陀仏しかないんだよと、こういう教えですよね。大吉が出ようが凶が出ようが、私たちには南無阿弥陀仏があるから大丈夫なんだというのが、この浄土真宗の本当に大切なところではないかなと思います。



◎ 幸せの亀？

葛飾区亀有に蓮光寺というお寺があります。蓮光寺は大きくて立派なお寺さんで、裏手には池があり、そこには亀がいるそうです。お寺のホームページにこう書いてありました。「蓮光寺には亀有というだけあって、亀がいる。その亀を見た人には、いいことがあったり、悪いことがあつたり、何もなかつたりします。」これ、面白いなと思いました。今まで行つたことのあるお寺や神社では、こういう書き方はしていませんでした。亀を見れたらしいことがあります、ご利益があります。こう書かれるのが普通だと思つていきました。ですが蓮光寺のご住職はそういう書き方をせずに、いいことがあつたり悪いことがあつたり、何もなかつたりしますと。要するにどちらが必ず起ころうということですね。亀を見たところで結局何が起ころうかわからないということです。

そこで、お念仏をしたからといって何があるかということですね。皆様が今日報恩講にお参りに来られて、阿弥陀さんの前で手を合わせ一生懸命正信偈をお勤めしましたけど、家に帰つて何かいいことがあるんでしょうか。もしかしたらいいことがあります。でも悪いこともあるし、何もなかつたりします。亀と同じですよね。

◎ 私たちは煩惱でできている

ここで、江戸時代に流行つた俗歌（流行り歌）を皆様にちょっとご紹介します。

「いつも三月花の頃。お前十九でわしゃ二十歳。死なぬ子三人親孝行。使つて減らぬ金百両。死んでも命がありますように」これ、私たちの欲望を表してないですか。いつも三月花の頃というのは、ちょうどいい陽気で花のいい香りが漂つてくるころが、いつもだつたらいいなど。お前十九歳わし二十歳。いつまでも年を取りたくない。死なぬ子三人皆孝行。親孝行の子が三人いたらどれだけ楽だろ

うと。使つて減らぬ金百両。使つても減らな

いお金が欲しい。死んでも命があるよう。長

いてあります。

◎浄土真宗のご利益

淨土真宗のご利益って一体何なのか。歎異抄という本をご存知ですか。他の宗派の宗教者からも絶賛されるような有名な本です。親鸞聖人の弟子さんである唯円という方が書かれました。この歎異抄という本は、前半は唯円が親鸞聖人から耳で実際に聞いた言葉をまとめたものです。後半は、親鸞聖人が亡くなつた後に、親鸞聖人から伝わったことではない教えが広まつてしまつていてることが痛ましい、違いますよということが書かれています。その本の一番最初にこのように書かれて

生きしたいなとか、いつまでも健康でいたいなどということです。これは私たち人間の欲望を表した歌だと伝わっておりますが、私たちはここにもう一つ、ヒガミというものがつきますね。いいな、あそこのお宅はこんなに寒いのにハワイに行つて、とか。親鸞聖人が言うには、人間は煩惱成就の凡夫人と言うそうです。煩惱がある、とかではなくて、煩惱が成就してしまつていて。百パーセント煩惱なんだそうです。百回除夜の鐘を叩いたところで、煩惱がなくなるわけじゃない。なぜかと言ふと、煩惱でできているからです。そんな私たちに対して光を当ててくださつている方が阿弥陀さんということです。煩惱はあるけれど、阿弥陀さんの助けが必要ですか。なくとも生きていけますね、別にね。でもそれでも気づいてくれ気づいてくれつて言ってくれているのが阿弥陀さんであると、私はいただ



おります。

「弥陀の誓願不思議にたすけられまいさせて、往生をばとぐるなりと信じて念佛申さんと思ひ立つこころのおこるとき、すなはち攝取不捨の利益にあずけしめたもうなり。」

皆様今念佛してますけれども、念佛しようと思ひ立つ心はおこつてますか。私が一緒に念佛しましようと言つて念佛しますけど、

ああ、本当に必要なのは念佛だつたんだなつて思つて念佛をした経験はありますか。それを、淨土真宗では信心と言われております。念佛を本当に思ひ立つ心が起つた時すなわち、おさめ取つて捨てないご利益をいただくことができるんだということなのです。おさめ取つて捨てないつていうことはどういうこととか。阿弥陀さんのご木像があそこにありますけど、あのご木像が歩いて、夜寝る時も一

緒に添い寝してくれるとか、そういうことで

はなくて、阿弥陀さんが必ずお前を見捨てないぞと、必ずこれから的人生に寄り添つて生きしていくぞと、だから安心してくれつていうことなのです。私はこのおさめ取つて捨てない、この利益こそが淨土真宗の一番のご利益ではないかなと思つております。『終わり』

講師紹介



源隆寺副住職 白川 亮先生

一般の家庭で生まれ育ち、その後僧侶の道へ。お若いのにしっかりと教えを学ばれています。



他力本願の意味知ってる？

「他力本願はダメだよ」こんな言葉、よく聞きますよね。他力本願というと、人まかせだとか他人をあてにするという意味で使われております。しかし仏教的に言うと、まったく違う意味になります。今回は他力本願という言葉について、一緒に学んでいきましょう。

一般的な意味合いだとマイナスなイメージ

もある他力本願。他力本願という言葉は、もともと仏教の言葉なのです。そして仏教的にも、とても大切な意味があります。まずは「他力」。字だけ見ると他の人の力というよううに読み取れますが、一体誰の力なのでしょうか。これは阿弥陀如来の力（はたらき）を意味します。そして「本願」。本当の願いと書かれていますが、これは阿弥陀如来が私たちを平等に救おうとして下さる願いを指します。

たらきを「他力本願」といいます。

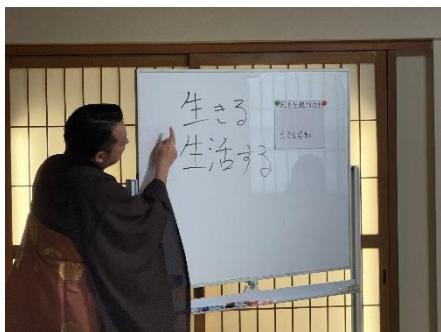
このように、本来はとてもありがたい言葉だったわけですが、現在ではその字のイメージで違う意味で使われてしまっています。ぜひこれを縁に、「他力本願」をあらためて考えていただき、この阿弥陀如来の本願を生きしていくより所にして、いのちを終えた後のことは心配せずに、歩んでいる今を精一杯生き抜いていただきたいと願います。

阿弥陀如来は遠い昔、法藏菩薩として仏に

なろうと修行をしていた時、四十八個の願い（誓い）を立てられました。自分が仏となつた時にはこの願いをすべて叶えるという誓いです。この四十八個の願いを本願と呼びます。そして法藏菩薩は長い修行を経て阿弥陀如来となられたので、この願いは成就されたわけです。いまでは私たちを常にすぐおうすくおうとはたらきかけて下さっています。このは

行事紹介

令和七年一月二十六日に新年会法要をお勤めいたしました。お勤めの後には楽しくお食事や抽選会も行い、みなさまと一緒に新年を慶び合うことができました。



じゃんけん大会



ドキドキの抽選発表
何が当たるかな？

さて今回は他力本願という言葉を紹介させていただきました。この言葉は普通に過ぎていてよくないイメージの言葉ですが、本来の言葉の意味を調べるとまったく逆のありがたい言葉であったと面白い言葉だと思います。このように現在当たり前のようになつたところもあります。みなさんもぜひ調べてみてください！

編集後記



備忘録 ～法事の準備～

○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、「家族で法要希望日をお決めになりお早めにお寺へ」連絡ください。

○当日必要なもの

・お布施(「先祖さま毎に毎回で実施する場合は、「お花代(本堂にお飾りする

・「先祖さま毎に包みを分けて下さる)

○「希望」についてお持ちください

・お花代で、一万円の実費)

- ・お供物
- ・過去帳やお位牌
- ・遺影(小さじもの)

○服装は華美でなければ平服でも結構です。

(1) 参加される方同士でお話しされてお決めください。
※お寺へお包み、ただく表書きは全て「布施」と書いて
いただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」や
「1」靈前」という言葉は用いません。

備忘録 ～お焼香作法～

○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出て「焼香ください」

○お焼香作法

・焼香机の前に進み、合掌せずに「本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒(香入れ)の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を一回、香炉にくべます。(お香を額に頂く)お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

備忘録　～お葬式について～

○事前の「相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆうぐり検討する時間がありません。お寺に「連絡いただければ葬儀までの流れなど」不明、「ご不安な点の」説明もさせていただきます。

○葬儀の場所

基本的にどちらにでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいているので気にせずに「依頼ください。

また、可能な方はぜひお寺で「葬儀を。故人が生前」縁のあつた等覚寺の本堂で、あたたかくお「そかな」葬儀をすることができます。

○葬儀の布施

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではなく、「亡くなつた時を」縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽に「相談ください。

備忘録　～「納骨について～

○「納骨のみはお受けできません

永代供養墓ではなく一般墓地を「利用の場合、浄土真宗の教義に則つて、葬儀式をお勤めしてからのが「納骨となります。式のやり方の「希望等」相談に乗れる部分もありますので、必ず火葬前に「連絡ください。

「」披露

等友への「懇志

加藤伊知郎様 小島栄様

（順不同）

いつも「」支援いただきまして、誠にありがとうございました。この等友誌や等友会は、こうした「」支援から成り立つております。



令和七年 年回表

一周忌	令和六年
三回忌	令和五年
七回忌	平成三十一・令和元年
十三回忌	平成二十五年
十七回忌	平成二十一年
二十三回忌	平成十五年
二十七回忌	平成十一年
三十三回忌	平成五年
三十七回忌	昭和六十四・平成元年
四十三回忌	昭和五十八年
四十七回忌	昭和五十四年
五十回忌	昭和五十一年
七十四回忌	昭和三十一一年
百回忌	大正十五・昭和元年

令和七年度行事予定

七月十三日～十六日

お盆

七月十三日（日）

盂蘭盆会法要

九月二十日～二十六日

秋のお彼岸

十月二十六日（日）

報恩講

令和八年

一月二十五日（日）

新年会

三月十七日～二十三日

春のお彼岸

◎お気軽にご参加ください。

※あくまで予定です。

開催が確定した行事は必ず事前にご案内いたしますので、別途ご確認ください。

